

ドナウの四季

2011年・春季号・No.10

お見舞いとお知らせ	盛田 常夫	1
下北半島からの便り	天野 明	2
自転車について考える@ブダペスト	本田 雅英	4
大きく育て、子どもたち	渡辺 晋	6
私の挑戦	秋山 忍	7
リスト音楽院日本人留学生卒業コンサート情報		8
留学生自己紹介	岡橋 熱典・松山 翔子・鈴木 舞	9
ページから皆さまへ	長沼 敦	11
サッカー雑感	盛田 常夫	12
バドミントンを始めたきっかけ	升谷 裕司	13
ハンガリー生活を振り返って	宮崎 好文	14
ゴルフ雑誌との格闘	町野 憲善	15
運動サークル情報		16



コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

コルナイ・ヤーノシュ自伝

— 思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円（税込） ◆A 5 判／ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学部の定番テキスト。体制転換の理論と転換直後の現状を分析。各大学で教科書として使用。

盛田常夫著

第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の比較分析に新たな視点を提供。

第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体制転換の違いを解明。

■新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円（税込） A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行一橋大学教授)で書評。

ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

ポスト社会主義の政治経済学

体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著 日本評論社 定価3800円



お見舞いとお知らせ

東北関東大震災に見舞われた皆様、犠牲者のご家族、心よりお見舞いと哀悼の意を表するとともに、震災からの力強い立ち上がりを遠いハンガリーより、お祈りいたします。また、被災地の復旧・復興作業にご尽力されておられる皆様、ご苦労様です。

何百年に一度の未曾有の地震と想像を超える津波の発生は改めて、我々人類が厳しい自然の中に生きていることを知らしめてくれました。文明はあたかも人類が自然を征服したかの錯覚を与えますが、いかに文明を発展させようとも、我々人類は自然のエネルギーや法則のほんの一部を利用して生きているにすぎません。繰り返して襲ってくる自然災害は人間の慢心をあざ笑うかのように、それまで築いてきたすべての富や命を一瞬のうちに消滅させてしまいます。その度に、人類の文明や人の命の儂(はかな)さを思い知らされます。

阪神・淡路大震災時にも、ハンガリーから戻った何家族かが被害を受けました。ハンガリーで一生懸命集めたヘンド磁器がすべて壊れ、「物の収集に凝っていた自分が馬鹿らしくなり、人生観が変わった」と語った人がいました。人類は有史以来、自然と闘い、自然と共存することで、ここまで文明をはぐくんできました。原子核の分裂が巨大なエネルギーを放出することを知った人類は原爆を発明しました。その開発にハンガリー出身の科学者たちが大きな役割を果たしたことは、歴史の皮肉な巡り合わせでした。戦後世界では原子力の平和利用が進み、大きなリスクを抱えながら原子力を電力発電に利用してきました。衛星放送、電話やインターネットが使えるのも、想像を絶する速度で流れる電磁波を使っているからに他なりません。宇宙の速度やエネルギーは人類がどれほど頑張っても足許にも及ばない次元のものです。今回の地震の直接的な原因となった宮城沖から福島沖にかけての数百キロにわたる地球プレートの跳ね上がりも、地球規模から見れば、ちょっとした地殻の変動でしかありません。広範囲にわたるとはいえ、わずか数メートルのプレートの跳ね上がりが数万

の人々の生活と命を奪うそのエネルギーに、ただ畏怖の念をもって跪(ひざまず)くしかありません。もしこれが彗星や小惑星の衝突だとしたら、直径数百メートルの天体でも、海面に衝突してできる津波は、その高さが数百メートルにもなります。関東平野が一瞬にして流される津波など、人間の浅はかな想像を超えるものです。しかも、そのような小さな衝突は宇宙規模では珍しいことでも何でもありません。ただ、地球がここまで人類を育むことができるようになったのは、このような衝突から逃れることができたからです。未来永劫、そのようなことが生じないとは断言できません。太陽がその寿命を終えるまで地球は存在し続けるでしょうが、いずれ人類が消滅する運命にあることを変えることはできません。そういう宇宙の中で、人類が誕生しここまで生き延びているに過ぎません。

日本の国会は休戦状態になりましたが、誰が政府を構成しても政策の根本的な転換が望めないのに、首のすげ替えと権力奪取に明け暮れてきた政治家には、改めて身を正してもらいたいものです。沖縄基地問題、北方領土問題、消費税引上げ問題、将来の社会保障構想など、本質的で重要な問題に抜本的な解決策を示すことなく、ただ足を引っ張り合うだけで右往左往する政治をあざ笑うかのような今回の震災は、日本の政治の在り方そのものを問うてはいないでしょうか。国と民族の利益を背負い、信念を持って正々堂々と国民に訴えることができる政治家が日本にいますでしょうか。今回の震災を機に、政治や政党のあり方をしっかりと考え直していただきものです。

文明がこれだけ進んでいるのに、津波の襲来に対処する手立てがないものでしょうか。入り江に入る前に、津波のエネルギーを分散させる方法が編み出せないでしょうか。この程度のことのできなければ、地球に衝突する天体の破壊など不可能でしょう。これは今後の防災科学に課せられた課題ですが、今回の震災の中で一つだけ人災を上げるとすれば、原発の冷却装置が機能しなかったことです。日本の原発は耐

震性に優れていると言われ、政治家も「世界一安全な原発」を謳い文句に積極的に誘致してきました。いかに想像を超える規模の地震とはいえ、建屋が破壊されていないのに、肝心要の冷却装置が作動しなかったのは人災ではないでしょうか。電源・水源確保の何重もの備えがなかったことを教えています。また、非常事態の処理を一つの民間企業に頼らざるを得ないシステムにも問題がないでしょうか。燃料棒融溶の危機には、日ごろから訓練を積んだ国の特殊部隊が指揮するシステムを構築すべきではないでしょうか。そのような視点で、現存するすべての原発で、原発管理の再検討を行ってほしいものです。

政治家の質が悪くても、日本人の対外的な交渉力やプレゼンスが貧弱でも、日本人は我慢強く、組織性と秩序を保って自らの苦難に立ち向かうことができる希有な民族です。NHKニュースの中で、「家も民宿も船もすべて失ってしまった。でも、命があるだけ良いです」と涙ながらに語る女性がいました。「生き延びたことが良かったのか、悪かったのか」と語る女性もいました。儂い命でも、命があり、生きる強い意志が限り、新しい生活を始めることができます。震災被害者の生活の速やかな復興をお祈りします。

ハンガリーの在留邦人の皆様。

今年11月1日、ハンガリーのお盆に当たる日に、小林研一郎氏が当地芸術宮殿ホールでヴェルディ「レクイエム」(鎮魂歌)を指揮します。このコンサートを東北関東大震災の犠牲者を弔う追悼コンサートとして執り行います。日本に關係の深い、当地の国民合唱団、武蔵野音大でも教鞭をとるベルケシュ・カールマンが音楽監督を務めるジュール・オーケストラが無報酬で出演し、芸術宮殿も施設を無償で提供します。コンサートの収益金をまとめて日本赤十字に寄贈します。このコンサートへの皆さまのご協力をお願いいたします。

2011年3月

「ドナウの四季」編集長 盛田 常夫

下北半島からの便り

天野 明

は、教育・老人介護・医療というソフトの分野でも、小中学校の統合と最新視聴覚設備やITの導入、英語教育を初め教育水準の高度化、デイケアセンターや救急体制の整備、最新鋭の医療設備と質の高い医師の採用など、新しい試みを進めていますので、原子力関係の収入が先細りになることにより、いろいろな影響が出ないことを祈るばかりです。リサイクル工場の方は技術トラブル続きで操業開始は既に十数回延期され、既に当初予算の3倍である2.2兆円の資金がつぎ込まれています。また、リサイクル工場の遅れで溜まった使用済み核燃料を一時的に保管するはずの中間貯蔵所も、結局恒久ゴミ捨て場になるとみられています。この先原発施設のどれかが事故を起こせば、誰もが一蓮托生の運命。しかし、一次産業以外に目につく産業が殆どなく、人口も少ない為、「こうなったら何でも来い」と達観している人が多いようです。

海の幸を求めて

こちらに来て最初に思惑が大きく外れたのは、スーパーマーケットで地元の山海の幸が見つからなかったこと。インド洋産トロや広島県産の牡蠣まであるのに、です。また見つけたとしても価格は東京より高め。生活に関わるので調べてみると、それぞれの漁村にある漁業協同組合の管理下で、採れた魚は札幌など大都市市場に直行してしまい、地元は素通りしてしまっているのです。以前は港まで行けば市民は採れたての魚介を入手できたそうで、地元消費者は市場経済の浸透によって割りを食う側に立ってしまったと言えそうです。1980年代のハンガリーでも野菜などはハードカレンシー獲得のために西側に輸出され、ブダペストにある外資系ホテルのレストランでさえ冬になるとサラダは全く姿を消していました。

しかし、そのうち地方の農協や農家などに行くときっかりするような美味しい野菜が豊富にあることが分かり、あるところに

はあるなあと思ったものでした。こちらでも幸いに漁師さんと知り合いになり、季節の新鮮な魚介が手に入るようになりました。そのお陰で、魚を捌いたり、手早く白子やウニを取り出すことができるようにもなりました。尤も、去年は地球温暖化の影響なのか、海水の温度上昇と度重なる時化のため一年間を通じて水揚げは例年の半分近くで、漁村にとっては極めて多難な年でした。

ゆったりの生活

どの地方でも見られますが、下北でも住民数百人規模の集落があちこちに点在しており、そこには同じ苗字(二本柳、角本、三国、川口、菊池等)の家が何軒もあります。そして、むつ市の夜を僅かに彩るスナックのママはどこそこの部落の誰そのの嫁であり、給仕をしてくれる娘さんは高校の同窓生、あそこにいるお客は近所の寺の住職さんという具合で、店内は明るく和気あいあいとしています。また、私と一緒に事務所で働いている若者たちも少なからず同級生か先輩後輩と結ばれており、従って、亭主が街のどこかで何かをするとその日のうちに奥さんの耳に間違いなく入っていますので、少なくとも市内では悪いことはできません。警官だって知り合いをスピード違反で取り締まるのは気不味い、ということを知っているせいか、運転する方も余りスピードを出しません。全てがゆったりと調和と均衡がとれて動いている感じです。

生活とともにある伝統芸能

年末に近づくと、何とか交響楽団によるベートーベンの・・・というのが大文化都市の定番ですが、ここ下北ではホテルで流行歌手によるデイナーショーが一般的です。そこでは、歌が気に入ったり、興に乗ると「おひねり」が登場します。勿論、投げたりはしません。舞台の上に置いて来るか、直接手渡します。歌手の方も心得たもので微笑んで一礼すると、さっとポケットに入れます。その様子は、ブダペストのレストランで

ジブシーの演奏にチップを渡す場面を想像していただければ遠からず、です。この習慣には歴とした根拠があります。東通村の各集落には、大漁・豊作を祈って守り神に奉納する「能舞」という伝統芸能が連綿として(最古の記録では500年前と言われ、演目は20近くある)受け継がれています。一時は継承する若者が少なくなり断絶の危機にありましたが、現在はどの部落でも青年部を中心に厳しい稽古を行っており、立派に復活・継承されています。昔から、上演のあるたびにかなりの額の「おひねり」「お花」が納められてきましたが、今では保育園児のお遊戯発表会にも登場する場所があるところを見ると、郷土文化を守るためだけではなく、地域の相互補助的な役割を負っているのかもしれない。私も最近地元での集まりに行く時は、必ず内ポケットに祝儀袋をいくつか忍ばせるようになりました。

自然と人情

さて、時折我が家の裏庭には雉やカモシカが訪れ、郊外ではクマにも出会うことのある、四季の変化に富んだ自然の素晴らしい下北ですが、地面から口をめがけて吹き上げる吹雪に遭うと、息がとまるほどで、冬の厳しさはハンガリーに引けを取りません。しかし、妻が無謀にも後輪駆動車で出かけて雪でStuckしてしまった時、近所の奥さんが重装備にシャベルを持って駆け付けてくれたり、また、夜中に降った積雪で辺り一面が優雅な流線型の銀世界に変貌し、感激して写真など撮っていたら、休日だというのに知り合いの人がショベルカーで救出に来てくれたり、北国の怖さを知らぬ暢気さに笑われましたが、こちらの方たちの人情に心はぼかぼかと温められています。

歴史の中のむつ市

最後に、むつ市には日本三大霊場の一つである恐山菩提寺があります。市内から車で30分ほど、深い山中にあり、参道の両

側には木々が鬱蒼と生えており、ところどころに小さなお地蔵さまが置かれていて雰囲気は十分。夜、急カーブのところ自動車のヘッドライトに突然浮かび上がるので、ドキッとします。今でも高校生などは夜肝試しをするそうです。また、むつ市には幕末の歴史もあります。会津戦争で敗れた旧会津藩士とその家族17,000名は、再興を許されて下北に農業の夢を託し、陸路・海路を通じて入植していったのですが、そのうち海路を採った人たちがむつ市大湊に上陸しました(1870年)。斗南(となみ)藩を立て、艱難に耐え奮励したのですが、気候風土の余りの過酷さに加え、廃藩置県(1871年)で藩主が東京に移らざるを得な



下北半島の風力発電風景

くなくなると希望を失い、僅か1年で多くがこの地を去ったと言います。このあたりの厳しい生活ぶりは、私が一番印象に残っているNHK大河ドラマ「獅子の時代」(1980年)にとても良く表現されています。

と、こんなに刺激的で楽しい生活が、本州北端にあります。是非一度「来(か)さまい」。

3月13日追記

此の原稿を出した後に東日本巨大地震が起こり、上で触れた原発についての危惧が具体化してしまいました。人類が核を制御しきることはなかなか難しく、果たして本当に想定外のことだったと言えるのか今後の検証を待つしかありませんが、一つ対応を間違えると一気に危険度が高まります。東電福島原発の現場では、命のリスクを顧

みず踏みとどまって作業を続けている方々がいるとのこと、何基かをおしゃかにすることで最悪の事態が回避できれば、それこそ不幸中の幸いです。また、上では「達観している」と記しましたが、こうした人たちは変わっていかざるを得ないでしょう。

むつ市では震度6ー7の揺れが何度かありましたが、殆ど被害は出ませんでした。車で2時間もかからないところの市町村で多くの方(3月13日現在、死者行方不明1700名だが、1万名超は確実と言われている)がなくなっていることを思うと、ひしひしと幸運を感じざるを得ません。私のいる事務所は津軽海峡に面しているため、地震を感知後、直ちに向かいの山に退避しました。上から海岸線を見ると、潮が異常に引いた後、続いて妙に膨れ上がった波がひたひたと押し寄せるのが分かりました。それでも此のあたりでは精々高さ2m位ですので、10mを超える津波の持つエネルギーの破壊力というのは想像を絶し、恐ろしくなりました。海上を望むと船が何隻も沖にでています。漁師にとって船は命です。船に駆け込み、津波が大きく立ち上がる前にできるだけ沖に向かおうとしているのです。村では春の大祭が中止になりました。秋の祭りができるよう、日本はなんとかも復興していかねばなりません。私は、休日にもかかわらず、83基ある風力発電機の早期復旧に努力している若い人たちの様子を見て、大丈夫だと確信できました。また、これまで知り合った海外の友人たちから沢山の励ましのメールを頂き、日本は一人ではないと感じました。此のエッセイを読んでいる方の中には親類や知人が被害に遭われた方がおられるのではないかと思います。遠くにおられて歯がゆいかもしれませんが、復興は長いプロセスになりますので、ひとりひとりが忍耐強く支えていければと思います。日本ガンバレ!

(あまの あきら・ユーラスエナジー)

自転車について考える@ブダペスト

本田 雅英

欧州では、プロ競技のジロ・デ・イタリア、ツール・ド・フランス、ブエルタ・ア・エスパーニャなどの競技を頂点に自転車が社会的に広く深く認知されている。ご当地ハンガリーでもサイクリングが人気だ。週末の天気の良い日など、グループや家族連れでペダルを踏む姿が郊外や市街地などの自転車専用道路で見られる。経験測だが、2000年前後に比べ今日、自転車利用人口は日常、レジャーとも明らかに増加している。ブダペスト市内の自転車専用道路の整備、自転車の流通など、2000年代中ごろから自転車をめぐる社会環境の改善が増加の後押しをしているのかもしれない。

運転で気をつけたいこと

私が初めて欧州にきたウン十年前。週末に人魚姫の像を見にゆこうと、コペンハーゲン駅前で自転車を借り、さっそうと街に出てすぐ、年配のご婦人に怒られたのを感じている。私が無意識に自転車道でなく歩道を走っていたのだ。書いてあることが分

からないと言い訳できるのだが、一般の日本人の感覚だと、車道は危ないと思いつい自転車道で歩道を走ってしまう。このとき自転車を車両として区別している社会があることを初めて体感した。また、欧州各地を訪れて驚いたのは、結構な割合でみんな腕による右折、左折の方向指示をやっていることだ。私は学生時代以降、日本全国を自転車旅行しインカレ等での自転車競技に参加してきたので、自転車歴はそう浅くないと自負している。学生時代は集団で走行する機会も多かったのですが、このような方向指示は今でもやっておりなじみがあるのだが、日本で一般の人が路上でやっているのをまず見たことがない。皆さんも、小学生のとき警察署のお巡りさんが学校に来て、交通安全教室で習ったとき以来ほとんど経験はないのでは？当地で自転車を運転する時は、地元のルールを守るのが事故防止に役立つと思う。当地では、日本から持ってきたロードレー

サーで週末の早朝、時間があればトレーニングに出かけた。よく走るのは家のある市街地から郊外を回り戻ってくる50から60キロのコースだ。途中市街地では赤信号で足止めをくらうが、郊外は信号がなく下りの坂道では時速40キロ以上で駆け抜けるので気持ちがいい。ただ、ハンガリーの道は舗装道路の路肩の状態が悪いところがあること—日本でもあります—with、大きな穴に車輪を落とすとパンク、転倒、自動車との接触が結構怖い。また、徐々に改善していると思うが、西欧に比べ自転車にたいする自動車ドライバーの安全意識は低いと言わざるを得ない—猛スピードで自転車の横をすり抜けるように追い越す、私の自転車めがけて、対向車線から無理な追い越しをかけるバカ野郎を何回も体験している。その多くはA社をはじめとするドイツ製高級車で、当国では車の価格とマナーの悪さが正比例しているのではないかとつい思ってしまう。

自転車文化に触れる

イタリアは、名車デ・ローザやコルナゴ、ピアンキや日系自転車部品メーカーシマノのライバル、カンパニューロを生んだ国だ。イタリア・アルプスの3,000メートル級の山脈を縫うように作られた山岳道路に行くと、ハンドメイドの美しいロードレーサーで力強く昇ってゆくサイクリストを多く見かける。車ならセカンドで昇るような坂道を、ぐいぐい上るあの体力に脱帽するとともに、ポルドイ峠(2,236m)にはイタリア自転車競技界の英雄ファウスト・コッピ(1960年没)の記念碑があり、そこにサイクリストが集うのを見ると、彼地の自転車愛好者の層の厚さと歴史を感じずにはいられない。イタリアがちょっぴりうらやましくなる。

ちなみに日本にはヒルクライムという山岳自動車道路を通行止めにして、ゴールをめがけてひたすら坂道を自転車で登る結構マゾっけのある競技がある。私は、今回ハンガリーに赴任した2007年の6月に、Mt.富士ヒルクライムというレースに参加した。このレースは、山梨の富士急ハイランド近くから5合目まで約24キロ(標高差1255m)を、全国から集まった健脚自慢

約4,000名が自慢のロードレーサーで最大7.8%の坂にあえぎながらひたすら上るものだ。平原の国ハンガリーで同様の競技会の存在を知らず、欧州では残念ながら参加したことはない。日本に帰国したらまた参加したいと思っている。

隣国オーストリアは結構サイクリング道路が整備されている。サイクリングにいいシーズンを狙って、これまで何回か自転車を車に積んで片田舎に出かけた。家族のお気に入り坂道のほとんどないドナウ川沿いの自転車専用道路だ。ここは地元のサイクリストも多いようで、年齢、性別を問わず幅広い層が集う。こっちはおなかの出た紳士・淑女もスタイルを気にせず派手なサイクルウェアを着て楽しそうに風を切る。もちろんみんな専用ヘルメットをかぶり本格的だ。自転車はマウンテンバイクや日本でいうクロスバイク風のを多く見かけた。日本でも試験的に行われるようになってきたが、ハンガリーやオーストリアでは自転車を列車に乗せることが可能だ。サイクリストは列車を使い起点の町まで行き、そこから自宅まで半日、1日かけて戻ってくることもでき

る。個人的にはうらやましい環境だ。収穫を待つリンゴやワイン用の葡萄畑の中を、川面を渡る風に吹かれながら走るはとても気持ちがいい。途中船の渡しを利用して対岸に渡り、サイクリングを続けるのも雰囲気が変わって楽しい。サイクリストが多く集まるレストラン、木陰で、遅めの昼食をとるのも日本では得られない体験だ。

いま日本でもエコな乗り物として自転車が注目されている。愛好者が増えることで、マナーやルール、自転車道路など社会資本の充実など、年齢を問わず自転車を楽しむライフスタイルの確立に向け課題は少なくないが、いつの日かハンガリーやその他の欧州諸国同様、子供から大人まで自転車を楽しめる社会になってもらいたいと思っている。

この原稿を3月11日に発生した東日本大震災の被災状況をネットやテレビ等で見聞きしながら執筆している。亡くなられた方、被災された方に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

(ほんだ まさひで・ジェットロ)



Zell am See(オーストリア)の風景



バッハウ渓谷(オーストリア)

私の挑戦

時間をかけて、行政が文章をお互い読みまわしていました。これら実態を知れば知るほど、「なんとかしなければいけない」という気持ちが高まりました。

現状に不満がある場合の、対処方法は3つです。

- ① 今の環境をやめる(環境から離れる)、
 - ② 今の環境に満足するよう、自分自身が変わる(環境に合わせる)、
 - ③ 今の自分の環境自体を、自分で変える(環境を変える)辞める、続ける、変わる(変える)、この3つしか選択肢はありません。
- 私の住む千葉市の場合も、50年以上も助役からの天下り市長が続き、市と市議会のなれあい行政で、なんと現在、借金が1兆円!しかも、前千葉市長が収賄で逮捕されました。その後、前市議会議長が別件で暴力団がらみの恐喝で逮捕されました。現在、政令指定都市最年少の熊谷新千葉市長が、千葉市の改革を推し進めようとしている傍ら市民の代表であるはずの市議会議員が反対しています。既得権を守るしがらみで、改革が進まないのです。



あきらめ、無知、無関心。これが今、日本での国民の政治に対する姿勢です。日本の社会や政治の実情に、苦情を訴え、評論はするけど、責任を持った行動は起こさない。私の住む千葉市の場合も、50年以上も助役からの天下り市長が続き、市と市議会のなれあい行政で、なんと現在、借金が1兆円!しかも、前千葉市長が収賄で逮捕されました。その後、前市議会議長が別件で暴力団がらみの恐喝で逮捕されました。現在、政令指定都市最年少の熊谷新千葉市長が、千葉市の改革を推し進めようとしている傍ら市民の代表であるはずの市議会議員が反対しています。既得権を守るしがらみで、改革が進まないのです。

政党のいいなり、緊張感のない馴れ合いの議会。二世議員、政党のロボット議員、サラリーマン議員。市議の中には40年以上、建設業と癒着したまま、議員をやっている人もいます。どんな立派な人でも10年も議員をやれば感覚が麻痺します。本来、市議会議員とはなんでしょう? ① 条例の提案能力、② 予算と行政の監視能力、③ 議会での質問、議論する能力、④ 市民の要望を実現する能力、⑤ 市民に、政治を知らせる、参加させる能力ではないでしょうか。しがらみのない若い議員に世代交代する必要があります。

現在、千葉市議会では、昨年から小学生でも使いこなすプロジェクターやパワーポイントが実施可能になりました。そして、ようやく市議会の質問形式が、一問一答方式が取り入れられました。それまでは、質問者が1時間近く質問し、それに同じくらい

社会システムがうまく機能していなことに憤りを強く感じたのです。「良いことをやっているはずなのにうまくいかない」不条理感。市民のひとりとして、自分自身が何とかしていかなければいけないと真剣に考えていた矢先に、先の市長の交代劇があり、新市長の出身である大前研一氏創設の政策塾一新塾に入塾し、志を磨いたのです。私の挑戦する千葉市若葉区の前回選挙は定員9名に立候補者11名、前々回は、なんと定員9名に立候補者9名の無選挙でした。毎回選挙では、候補者のほとんどが政党公認や推薦議員で固定かされ、一番年配の議員が新人と交代する程度の選挙がなされてきました。高年齢の超保守型です。そこに私は、組織票の1票もない完全無所属新人として、今回ただひとり飛び込みます。ひじょうに不利な立場ですが、全力を尽くすのみです。若葉区の投票率は前回選挙46%、これは千葉市6区中、5番目。これを10%アップの56%にして、千葉市6区中、1番を目指したい。そのために、とにかく選挙に行こう!絶対に政治を諦めないで!千葉市を助けましょう!それが、自分たちの将来や子供たちを助けることになる!幸せな若葉区、明るい千葉市に変えていこう!と訴えます。

仕事を選ぶ3つの基準として、① 自分が楽しい、② 自分が成長する、③ 社会のためになる(人のためになる、人に喜ばれる)と考えています。

政治と言うものは、自分の生き様や人となりが一番表れるといえます。ですから、今回の挑戦は新たな自分への挑戦でもあり、成長の機会です。人々の身体も心も健康にし、本来の生きる目的を明確にして、ともに成長したい。民間企業、フリーター、国家公務員、自営業、NPO、政策塾等の経験で学んだ、考え方、モノの見方、人生体験や知識を生かし、バランスよく、目的に向かって、これからも、行動していくつもりです

のをなるべく意識しないで、フラットな目線で、シンプルに他者と出会うような、そんな感覚を自然と身に付けられる環境で育てて欲しいという思いがありました。少し大げさですが、このことはまた、彼らが将来、大人になる過程で何かしらの困難に遭遇した時に、日本、あるいは日本人という制限されたパースペクティブだけに囚われず、より広く周りを見渡して、問題と対峙することを可能にするようにも思うのです。長男の学校選びの際にあったのは、このような背景でした。

ただ、こんな、親の無いものねだり(エゴ?)をベースにした学校選びを可能にしているのは、言うまでもなく、みどりの丘補習校の存在があるからに他なりません。

将来的には日本に帰ることを前提としている以上、たとえ今は普通の学校生活が英語主体であっても、母国語である日本語を疎かにはできないからです。すっかり「英語人」になってしまった長男の話す日本語は、時にアクセントが英語調になっていたり、英語をそのまま直訳したようなぎこちないものだったりします。また、言葉だけでなく、例えば、授業に臨む態度も、日本の学校の子供たちとは少し違っているようです。みどりの丘補習校の先生方には、こんな息子を広い心で受け入れ、日本語、また日本文化の素晴らしさを教えてくださり、大変感謝しております。

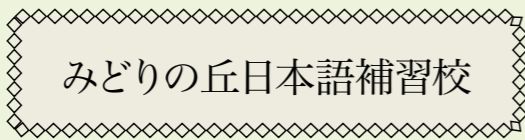
ところで、長男は、イギリスでもロンドン補習校に通っていましたが、私見では、ブダペストみどりの丘補習校は、より先生と生徒、またその親との関係が近く、関係者が皆で一体となって作り上げている手作り感があるように思います。また、異なるバックグラウンドを持つ生徒が集まっていることも特色の一つではないでしょうか。例えば、息子が通う2年生のクラスは全員で7人ですが、それぞれの生徒が普通の学校で使っている言語は、ハンガリー語、英語、フランス語という具合に多岐にわたっています。当然、日常における日本語との距離もそれぞれに異なり、日本語の習熟度合いも異なるわけですが、興味深いことに、子どもたちにとって、これらのことは友達になるための障壁にはならないようです。休み時間ともなれば、学年に関係なく仲良し同志が集まって、楽しそうに遊んでいる姿をそこかしこに見かけます。彼らにとっては、何語が第一言語か、といったようなことは特に大きな意味を持たず、単純に所与のものとして受入れているだけなのでしょう。このことは、もしかすると、私が大人になって海外生活をしてみて、初めて実感することができた「色々違うところもあるけど、所詮、人は人」という感じ方に近いものを、彼らは特に意識もせず、すでに自然と身に付けているということなのかもしれませんね。

私は、息子が、みどりの丘補習校で、日本語だけでなく、こうした感覚も一緒に育んでいることを、ある意味羨ましくさえ思います。そして、これからもこの当たり前だけど、とても大事な感覚をずっと持ち続けていってくれることを願っています。

大きく育て、子どもたち

渡辺 晋

私たち家族がハンガリー・ブダペストでの生活を始めてから、はや1年が過ぎました。ハンガリーに来る直前はイギリスに3年半いたので、海外生活は足掛け4年半になります。私も妻もこれが初めての海外生活。二人とも、元々外国語が得意で海外に住むことを志向していたようなタイプではなく、日本にいた時は、いわゆる「外国人」に話しかけたことも無ければ、むしろ話しかけられないよう努めていたような次第で、「外国」や「外国人」を自分が今いる世界とは切り離して異質な



ものと捉えている典型的な(?)日本人でした。そんな調子でしたから、海外への転勤が決まった際も、現地での生活が全くと言ってよいほど、想像できていませんでした。

そんな頼りない両親に率いられて、海外にやって来た二人の息子たち。長男次男ともイギリス時代は、近所のInfant schoolに通っていました。長男の登校初日、息子が、緊張で身体を強張らせながらも、「ママ、僕、一人で大丈夫だよ」と気丈に振舞って学校に入ってしまった、という話を後で妻から聞き、当時、慣れない仕事で苦勞していた私は、「私は、一人で大丈夫だよ」と言えるだろうかと自問させられ、同時に、遅くなった子どもの成長を嬉しく思ったものです。その後、次第に学校にも慣れ、友達も増え、自分のことを日本人というより「英語人」というアイデンティティで認識するようになった長男は、ハンガリーに来た現在も、イギリス時代同様、平日は英語の学校、土曜日は日本語補習校という生活を送っています。

ハンガリーでの学校選びにおいては、もちろん日本人学校という選択肢もありました。今後もずっと海外で生活するわけではなく、近い将来、日本に戻るということが明確でしたし、子どもの日本語教育のことを考えると、どちらにすべきか、実際判断に悩むところでした。どちらが正しいということは無いと思いますが、我々の場合、長男自身が「英語の学校に行きたい」と意思表示したことに加え、両親がこれまで育てきた背景も影響していたように思います。それは、先述のように我々夫婦がこれまであまりに海外と無縁で、「外国」や「外国人」を遠く感じていた、という点です。

海外で生活してきて強く思うのは、これは至極当たり前のことなのですが、外見や言語、文化風習こそ違えど、所詮、人は人だというシンプルな事実です。日本以外に住む人々も決してstrangerではないということ。頭では理解し、口では相応に形容していたかもしれませんが、思い返すに、かつての私は無意識に違う目線で彼らを捉えていたかもしれません。私は大人になって、たまたま海外で生活する機会を得、この当たり前のことを漸く当たり前に感じられるようになってきましたが、子どもたちにはこの機会に、日本人と「外国人」を隔てる、国籍や人種、言語といった付加的なも

♪リスト音楽院日本人留学生卒業(ディプロマ)コンサート情報

今年度名門リスト音楽院を卒業されるに当たって卒業(ディプロマ)コンサートが開催されます。約1年をかけて準備し挑むコンサート形式の最終試験になっていまして、留學生生活の集大成となります。入場料などはなく、どなたでもお聴きになれますので皆さんお誘いの上、是非足をお運びください。

♪ 安田 恵子 (大学院ピアノ科)

5月11日(水)16:00開演 旧リスト音楽院

曲目:ベートーベン:ピアノソナタ No.27 Op.90

ラフマニノフ:コレルリの主題による変奏曲 Op.42

リスト:ピアノソナタ ロ短調

♪ 菊地 玲子 (大学院ピアノ科)

5月18日(水)16:00開演 旧リスト音楽院

曲目:バッハ:フランス組曲第5番 BWV816 G-dur

ベートーベン:ピアノソナタ Op.57 f-moll

ショパン:バラード第4番 f-moll

バルトーク:ルーマニア民俗舞曲



♪ 山田 真理子 (大学院ピアノ科)

5月19日(木)19:00開演 旧リスト音楽院

曲目:スカルラッチェ:ピアノソナタ イ長調 K.322、ニ長調 K.96

ニ短調 K.1、イ短調 K.54、ハ長調 K.487

ラフマニノフ:楽興の時 Op.16

ショパン:前奏曲 Op.28

♪ 大迫 綾香 (大学院ヴァイオリン科)

5月20日(金) オープダ集会場Obudai Tarsaskor

曲目:J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンソナタ第3番

BWV1005よりAdagio,Fuga

ドホナーニ:ヴァイオリンソナタ op.21

メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調op.64

共演:ピアノ:岩崎 由佳、ブダペスト弦楽合奏団



♪ 星野 智也 (大学院チェロ科)

5月20日(金) オープダ集会場 Obudai Tarsaskor

曲目:J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第4番 BWV1010

プレリュード、クワラント、サラバンド、ジーク

ショパン:チェロソナタ Op.65

ハイドン:チェロ協奏曲1番 ハ長調

共演:ピアノ:ロコシュ・ドロツチャ、ブダペスト弦楽合奏団



※20日の大迫さん・星野さんのコンサート開演時間がまだ決まっておりません。

確定しましたら「ドナウの四季」ホームページ掲載情報・開場等でご確認ください。

★会場案内:旧リスト音楽院 / Régi Zenekadémia, VI. Vörösmarty u. 35 Tel: 322-9804

オープダ集会場 / Óbudai Társaskör, III. Kiskorona u. 7 Tel: 250-0288

留學生自己紹介

浪漫譚

セント・イシュトバン大学獣医学部

岡橋 熱典

幼少の頃より国外へ飛び出し、既に人生の半分以上をいろいろな国で過ごしてきました。最初はニュージーランドから始まり、中国、アメリカ、そしてハンガリーへ。過ごした国それぞれに特徴があり、一概にどの国が優れていてどの国が劣っているとは言えません。文化・言語・人々の価値観などが異なり、国として歩んできた歴史も違います。いきなりそのような環境に身を置き、生活する事は容易いことではありません。特に留學生にとって、教育システムの違いは学業を進める中で悩む原因の大きな要素になり得ます。ことわざには「郷に入れば郷に従え」と言う言葉がありますが、現実そんなあまいものではありません。文化の違いで納得のいかない事、言語の違いで上手く思いを伝えられない事、価値観の違いで気持ちが落ち込む事、など多々あります。それなりの覚悟と決断力が無い限り、長い留學生生活を乗り切るのは難しいです。それを成功させる為には、どれだけ自分の夢や目標に強い意志を持っているかが重要な要素です。

現在は獣医学部の最終学年で、国家試験を目前に控えるなか初心を忘れず頑張っています。初めての日本人としてこちらの獣医学部を卒業する予定です。ハンガリーの獣医学部は2011年の卒業生までは5年制で、以降の卒業生については5年半に変わりました。話をしている経歴を話すと、最終的にはなぜハンガリーなのかをよく聞かれます。確かに獣医学部は多かれ少なかれほとんどの国にあります、その人の環境や経済の事情などで選択肢が限られてしまいます。私の場合はアメリカの大学にいた頃、学部の掲示板でたまたま募集要項を見つけたのがきっかけでした。留學生にとってアメリカの医学部や獣医学部などのprofessional schoolに入るのは至難で、どれだけ成績が良くて金銭的な余裕があったとしても確実に入れるとは限りません。何故なら地域貢献やボランティアなどの要素も考慮されるからです。そんななかで卒業後の進

路を、不確実なアメリカの獣医学部か確実なハンガリーの獣医学部かを考えると直ぐに答えは出ました。どこで獣医師になるか、ではなくどんな獣医師になるかという考えが進路を決める上で重要だったからです。事実ハンガリーの獣医学部の教育環境はアメリカや西欧と比べると良いとは言えませんが、自身の努力次第で腕を上げていくことは出来ます。ハンガリーの獣医学部はその可能性を与えてくれました。

「獣医さん」と聞くと、どの様な印象を持たれるでしょうか。一般的に想像されるのは、町の動物病院で飼い主さんが連れてこられる動物を治療する先生だと思えます。確かにほとんどの「獣医さん」は大学を卒業後、しばらく町の開業医の元で働いてから自分でも開業する方が圧倒的に多いです。しかし臨床医として治療するのは犬・猫などの小動物だけではなく、牛・豚・鶏などの畜産動物、鳥・爬虫類などのエキゾチック動物、更には野生動物にまで至ります。人間とは違い、種類も多彩な動物はそれぞれ専門的な知識を必要とします。又、臨床医として実際に治療する以外にも、屠殺所・保健所・検疫所・食品衛生管理・薬品開発・獣医師法制定など様々な分野に「獣医さん」は関わっています。

こちらでの生活はなに不自由なく過ごせています。同じように様々な分野からハンガリーに留學生として来られている方や、こちらに住んでおられる方にお世話になり、励まされ、助けられています。そのことを日々感謝し、これからも精進していきたいと思えます。

今後どのような分野に進むか決めてない人や、既にその途中の人にも心の隅に留めておいて頂ければ幸いです。人生は浪漫であり、目的地に到達するまでの過程に物語がある。しかし目的地は終着点ではなく、そこから更に先への序章にしか過ぎない。振り返った時、壮大な物語が描かれているような人生を歩んで欲しい。

引用:祖父の言葉

引用:祖父の言葉

引用:祖父の言葉

ディプロマを迎えて

リスト音楽院大学院チェロ科

松山 翔子

ハンガリーに来て5年が経とうとしています。現在師事しているオンツァイ教授のレッスンに魅せられ、高校卒業後に入学試験のためハンガリーへ始めて来た時は、この国で自分が生活できるのか不安でしかなく、合格通知を受け取った時も素直に喜ぶことができませんでした。

大学生生活当初はとにかく授業が多く、授業の合間を縫って練習時間を見つけ出し、気がついたら1日が終わっている・・という毎日だったのを覚えています。リスト広場にある校舎と旧リスト音楽院を交互に行き来しながら1日6クラス、その間に細切れに家に帰り、ご飯を食べて練習をするという、今思えば笑ってしまうような曜日もありました。

しかしその生活の中でも、授業の中で様々な国籍の学生の意見や文化の違い、そして同じ門下生の確立された演奏技術と確固たる自信を持って演奏する姿にとっても刺激を受けました。日本では講義でもレッスンでも、先生の言われたことを受け止める、受動的な授業が多い気がしますが、こちらでは教授の言われたことが理解できなかったり違う意見のある場合、皆積極的に疑問や反論を投げかけることが多いです。だからこそ、その授業内容や曲に対して自分なりの解釈、アイディアをしっかり持ち、授業を受けることに対しても、曲を演奏することに関しても責任や意思を持ち、それが説得力のある演奏につながっているのだと思います。

作曲家コダーイの弟子であるヘジ・エルジェーベト教授にソルフェージュをよび和声楽を学べたことも貴重な経験です。教授自ら作られた、コダーイ・メソッドに基づく参考書を使いながら、和声・ソルフェージュの授業を受けました。和声・ソルフェージュ共にとても実用的です。教授が弾かれる4声を聞き取って和音の種類や転調の過程を書き留めることから始まり、次は先生の言われる和声の進行に従ってピアノで弾く、そして実際の楽曲の1部分を聞き取って和声進行を瞬時に理解するという具合です。

日本のサッカーは確実に変わってきている。南アのW杯では守備的な戦いを余儀なくされたが、アジア杯では激しい打ち合いに転じることができた。ほとんどのゲームで相手に先行されながら、ゲームをひっくり返すザック・ジャパンは頼もしい。今の代表チームは守ることより、点を取ることに意識が向いている。それをやり遂げるタレントが揃いつつある。

韓国戦で本田圭祐が失敗したPKをきっちり決めた細貝や、カタル戦のゴール前で香川がファール状態で倒され、そのこぼれ球を押し込んだ伊野波はともに代役で登場した選手で、しかも伊野波は右サイドバック。ふつうは前線にいるはずのない選手がゴールを決めた。ビデオで確認すると、香川が中央からゴール前へ切り込んだ時に岡崎も一緒に並走したが、ガラ空きの右サイドには伊野波一人が3トップの形で陣取っていた。ペナルティを食らって一人少ない日本チームのサイドバックの位置取りではないが、細貝にしても伊野波にしても、出場したゲームのワンチャンスをものにして代表に定着したいという貪欲さがあった。PKのこぼれ球に反応した細貝は最初からそれを狙っていたという。意識的にペナルティエリアのやや後方に立ち、そこから勢いを付けてこぼれ球に向かうので、ライン上に並ぶ相手選手より一瞬早くボールに触ることができるのだ。

それにしても、カタル戦の勝利は香川の個人技に頼ることが大だった。ヴァタル・エリア近くからドリブルで相手ディフェンスを切り裂くすばしっこさは、メッシに似ている。メッシ同様、香川も体が大きくないから、二人の姿が重なる。

アジア杯に出場しなかった若手で、世界で活躍できる才能をもつ選手がいるのは楽しい。名将ベンゲル監督に見染められ、アーセナルと5年契約を結び、すぐにオランダ・フェイエノールトにレンタルされた宮市亮はまだ高校3年生。レンタル契約が済んで早速、2月のゲームにスタメン出場を果たし、ゴールこそなかったものの週間ベストイレヴンに選ばれた(YouTubeで彼のプレ

ーを見ることできる)。続く第2戦目で先制点を決め、二週続けてベストイレヴン。しかも、週間ベストゴール賞のおまけまで付いた。衝撃的デビューとしか言いようがない。オランダリーグのレベルは欧州のトップリーグに比べて一ランク落ちるとはいえ、あの本田圭祐ですら、オランダ2部リーグ止まりでロシアリーグへ移った。ところが、1月の高校選手権に出場していた18歳になったばかりの初々しい少年が、名門フェイエノールトの救世主になりつつあるのだ。当地のファンはロナウジーニョにかけて「リョ(亮)ジーニョ」と名付けたようだが、体の大きさもプレースタイルもC.ロナウドに似ている。180cmを超える体躯、百米10秒台の俊足でドリブル突破する宮市はロナウド・タイプだろう。待ちに待った大型FWである。

同じ18歳の希望の星にガンバ大阪の宇佐美貴史がいる。宮市に一步先んじてJリーグデビューを果たしたが、宇佐美の欧州リーグ移籍も時間の問題だろう。多くのクラブがかなり前から宇佐美に注目しているのだから。FWのタレントが不足していると言われる日本だが、タイプが異なる若い選手が成長しているのは心強い。カターニャの森本は風貌もプレースタイルもブラジルのロナウド。これにメッシ風の香川とC.ロナウド型の宮市が加わり、さらに複数のポジションがこなせる多能型の宇佐美が加わる近未来の代表チームの攻撃力は世界で見劣りしない。サイドバックに長友や内田、安田などのタレントがいるから、問題は閻莉王と中澤が抜けるセンターバックの人材である。VVVフェンロー所属の吉田麻也やFCケルンに移籍した槇野智章の成長に期待したい。

長友のインテル移籍について、TVスポーツ解説コーナーで張本勲が「巨人に入るほど凄いことだ」と説明したようだ。巨人コンプレックスと、サッカー界にたいする無知をさらけ出した張本だが、その長友が頑張っている。イタリア・セリエAでは中田以外に成功したサッカー選手はいない。その中田もペルージャを出てからは不動の地位を確保できなかったから、日本人プレーヤーに

たいするイタリアの評価は厳しい。インテルのサイドは左にルーマニア代表のキヴ、右に世界一のサイドバック、マイコンが定着している。だから、長友はユーティリティ・プレーヤーとして、スーパーサブか負傷交代要員で、本職の左だけでなく右でも使われる。その長友がジェノア戦でゴールを挙げた。点差が開いていたこともあって、自由に攻撃参加できたことが大きい。中盤から駆けあがって、まるでFWのようにゴール前に陣取ってボールを要求し、大男に囲まれながら体を反転させて蹴り込んだ。長友に期待されているのはゴールではないが、ここで点をとって目立たないと後がないというがむしやんな積極性がゴールを生んだ。次戦のチャンピオンズ・リーグ8強進出をかけた対バイエルン・ミュンヘン第二戦(3月15日)、敗色濃厚な残り3分(ロスタイムを含めると7分)でコートに送りだされた長友は、1分後にロングボールに反応してゴール前に突進し、相手DFがエトーのボールコントロールをチェックするのをかく乱し、パンデフのゴールにつながる動きをした。この時、前線に走り込んだのはエトーと長友だけで、彼らがボールに絡んで左サイドでDFを引き付け、長友がシャドウになってエトーが中央へサイドステップして、空いている右サイドに走り込んできたパンデフにボールを流し、これを蹴り込んだボールが決勝点になった。これこそスーパーサブの値千金の仕事だ。

それにしても、Jリーグの監督や代表スタッフたちは、どうして香川真司や宮市亮の能力を過小評価してしまったのだろうか。プロ契約制度の穴を欧州のスカウトに突かれているのではないか。それに比べ、欧州の名将は選手の能力を見極めるのがうまいし、クラブも才能ある若い選手を発掘し、大きく育てて他のクラブへ移籍させるビジネスを展開している。日本の若い選手が無償か、僅かな移籍金で欧州へ流れていく。移籍金でチームを強くする経営力がないと、クラブに体力を付けることはできない。クラブ経営者ももっと選手を見極める眼力をつけ、経営能力を高める必要がある。

中学校の部活動でバスケットボールをやっていた以外は、これといった運動はしてこなかった。40代も後半にさしかかり、毎日ビールを飲みながらお腹の膨らみを眺めつつ「運動不足を解消せねば!」という脅迫観念にかられていました。たまたま「バドミントンのダブルスでハンガリー3位だった」というハンガリー人P君が同じ部署にいて、これもたまたま「バドミントン経験者」(しかし、お腹の膨らみは私を遥かに上回り、経験者という言葉は信用できなかった)という日本人がいて、さらにたまたま「私の母は、ママさんバドミントン日本一だった」という日本人がいました。

P君が毎週金曜日の夕方に会社の近くで練習しているというのを聞きつけ、早速参加させてもらうことになった。この話を聞きつけた他の日本人の同僚2名も参加することになり、運動不足集団5名のバドミントン活動が始まりました。会社の近くの学校の体育館での活動は、市の活動らしく(私達は市民ではありませんが)タダで参加でき、20名程度のハンガリーの人達が練習しています。レベルもさまざまで、P君とその友人達のレベルが際立って高く、その他素人の人達も沢山いました。

ハンガリーのバドミントンはあまり盛んではなく、道具も日本のメーカーのY社製のものほとんど。そこへ登場した我々日本人集団、さぞかし期待を外したことと思います。ごめんなさい。初日の練習では汗をたっぷりかいて、持っていった水(500ml)では足りず、家になんとかたどり着き体重計に乗ったら、なんと「マイナス2kg」ガッツポーズ。黄金色の麦ジュースで水分補給をして、翌朝体重を再度測ったら元通りでした。やっぱり。翌週は筋肉痛が1週間続き、大変な思いをしました。本当、こんなすごい筋肉痛は生まれて初めてでした。

バドミントンって、激しいスポーツなのです。素人なので動きが無駄という話もありますが、勘弁して下さい。こんな運動不足の日本人集団の我々にもハンガリー人の方々は温かく接して頂き、練習の時に「試合しよう」とか「こういう時は、こう動いた方が良い」とか声を掛けてくれる様になりました。はじめは、P君からラケットを借りて練習をしていました。(さすがハンガリー3位、ラケットは5本程度持っていました。全部日本のY社製)練習を重ねるに従い自分の道具が欲しくなるものです。P君の紹介でブダペストにY社の専門店がある(残念ながら平日しか開いていない)との情報を聞き、会社が休みになった日に早速出向きY社製のラケットを購入。ラケットを変えてもすぐには上手くなりませんが、やっぱり

自分の道具というのは良いものですね。しかし、金曜日といっても忙しい日もあり、なかなか参加できなくなり約1年前を最後に参加しなくなってしまいました。P君も忙しい様で、「私も最近行っていない」との事で、妙に安心してしまいました。

こんな感じでバドミントンを始めた訳ですが、時を同じくして日本人会のバドミントン部が活動を始めたという噂を耳にしました。とは言っても知った人がいないと、なかなか参加しづらいもので、日本人学校の親つながりで後の2代目部長Uさんを紹介してもらい、参加することにしました。

当時は初代部長のTさん夫妻が中心となり活動を始められており、部員数も数名でコートも2面での練習だったと思います。経験者も何名かいましたが、素人の私と子供2人を暖かく迎えて頂きました。私は週末の運動不足解消、子供達は友達との遊びの場、そして練習後の麦ジュース、我が家の中では立派な週末のルーチン行事となっていました。その後だんだんと人数も増え、大使館の方・日本人学校の先生・生徒・企業の方・奥様・留学生が入れ混ざった活動に発展していき、飲み会をやったりしながら普段では経験できない貴重な出会いの場となっています。

我々バドミントン部の活動は、毎週日曜日16:00から18:00の2時間、体育館を借りて行っています。最初の30分程度を打ち合い(クリア・ドロップ・スマッシュなど)で体を温めたあと、残りの時間は経験者・素人・男性・女性・大人・子供みんな混ざってジャンケンで組み合わせを決めて、ダブルスの試合を行います。サーブ権なしのラリーポイント制で21点勝負です(このルールになったのは2006年からだそうです、経験者の方はビックリされます)。単純なゲームですが、結構真剣になり1時間半の試合時間はあっという間に過ぎていきます。週末の運動不足解消程度の気持ちで構いませんので、参加してみたいいかがでしょうか? 素人大歓迎です。結構ハマりますよ。

最後になりますが、「田児賢一選手」知っていますか? バドミントン世界ランキング13位の日本人最高位の選手です。まだまだ伸びそうな期待が持てる選手です。最近2本目のラケットを購入しましたが、この田児選手と同じラケットだということを後で知り、週末の練習前にはYouTubeでイメージトレーニングをしてから参加しています。道具で上手くならないのは、ゴルフと同じですが、. . . 久しぶりに出会ったスポーツ、なかなか落ちないお腹の肉とにらめっこしながら、練習を続けようと思います。



ハンガリー生活を振り返って

宮崎 好文

2006年5月6日の夜にブダペスト・フェリヘジ空港に独りで降り立ち、その足でタクシーにてケチケメートのホテルに向かった事を今でも鮮明に記憶しています。それから、あっと言う間に5年が過ぎてしまいました。今回の海外赴任は小職にとって初めての単身生活の始まりで、不安と期待が複雑に絡み合っていました。まずは生活の要である住居を決めるべく、ケチケメートのホテルに滞在しながら、不動産屋経由で色々な物件を集め、週末を活用してブダペスト市内のアパートを不動産屋のハンガリー人と共に下見に行きました。

単身生活や業務から来るストレスを癒す為には、如何にプライベートタイムをリラックス出来るかが重要だと思っていましたので、結構時間を掛けてアパートを探し、実際に入居したのは6月16日でした。時間を費やしただけあって、部屋からの眺望、部屋への採光共に最高で、オーナー夫婦を含めて今でも大変満足しています。住居も決まり本格的にハンガリーでの生活が始まりましたが、住居と工場が約100km離れていることもあり、5年間の走行距離は軽く20万kmを超えてしまいました。

ハンガリーの高速道路状況は周辺国、例えば、チェコ・スロバキヤ・スロベニア・セルビア・クロアチア・ウクライナと比較すると大変恵まれた環境でした。元々車の運転が好きで免許取得からこれまでの40年間に、日本車・アメリカ車・ドイツ車の13車種を乗り換えた位で、かなりのカーキチで毎日の運転は特に苦にはなりません。日本帰国後は是非ともドイツのターボディーゼル車に乗りたいと思っています。

もう一つ大きなハンガリーでの思い出と言えば、やはりハンガリーワインとの出会いです。ハンガリー国内には大きな所で約23箇所のワイナードがあり、赤・ロゼ・白そして貴腐ワインと様々

なテイストを楽しむ事が出来ます。ハンガリーワインの良さは、兎に角香りが素晴らしい事、色は言うまでもなく、2003年、2006年となると賞賛の言葉もありません。日本で勿論手に入りませんし、今まで試した事ありませんでしたので、特にレッドワインの素晴らしい事は言葉で表す事が出来ません。ワインクーラーと共に愛用のピラニー・セクサードのレッドワインを持ち帰るつもりでいます。

ここで、約4年間「ハンガリー日本人ゴルフ部」の副代表を務めさせて頂いた事もあり、少しハンガリーでのゴルフを振り返って見たいとも思います。正直、ハンガリーに赴任するまでの5年程は日本でゴルフからは遠ざかってしまっていて、アメリカで生まれたゴルフへの飽くなき情熱は何時しか薄れ、ハンガリー着任まではゴルフへの期待感は余り強くなかったのが本音です。でも、ハンガリーでのゴルフを通じ色々な人間関係が生まれ、また、小職のゴルフ魂に火が点いてしまいました。会員皆様のゴルフに対する情熱や努力には見習うべき所が多々あり、ライバル意識から来るゴルフに対する取り組みも日増しに高まり、ゴルフシーズンが終わった12月以降もゴルフ仲間と冬季耐寒練習に取り組んだものでした。20代から60代と年齢に関係なく、ドライバーの飛距離を競ったり、グリーン上の種類のゲームに興じたり、プレー終了後の勝ち負けに喜怒哀楽したのも今では懐かしい思い出です。小職の戯れゴルフに長くお付き合い頂いた皆様には衷心より深くお礼申し上げます。一方で、5年間の業務を通じて改めて学んだ事は、「言うは易し、行うは難し」が実感です。

最後に、長いようで短かったハンガリーでの5年間を楽しくもあり思い出深く送れましたのは、偏に会員皆様のご厚情とご理解の賜物と深く感謝致しております。4月の中旬には離任する事になりますが、ハンガリー日本人ゴルフ部の益々の発展と皆様のご健勝を心より祈念しております。これからのゴルフシーズンを前にパンノニアを離れるのは断腸の思いですが、サラリーマンの宿命として受け入れています。本当に5年間有難う御座いました。

(みやざき よしふみ・日清食品)



ゴルフ雑誌との格闘

町野 憲善

2010年のゴルフシーズンの終了をまじかに控えた、11月の後半に、たまたま同じ日に発売された、最新ゴルフ雑誌、3誌(P. ゴルフ、G. ダイジェスト、C. イス)が手に入った。シーズン中にゴルフ雑誌を読む事は殆どないが、12月から3月中旬まではコースが閉鎖(厳密には、雪さえなければ従業員用の裏門から入り、ウインターグリーンを使つての運動は可能)されるので、その間の時間つぶしとして活用することに決めた。また、10月の一時帰国の折、テレビ講座の「夫婦ゴルフのすすめ」のテキストのみ買ってあった。理由は講座の生徒がお笑い芸人のG. タカ夫婦であったため。笑いながら楽をして、学習、上達の棚ぼた効果期待してのことで、家内にゴルフを期待した訳ではない。

冬場の週末は、明るい内から「ワイン飲み人形化」するのを常としているので、4誌を読解することなく、ダラダラと少しづつ、酔いに任せて、長期間掛かって読むこととなった。予想していた通り、2月末になっても、4誌を 読み散らすだけで 目覚めた様な自分に合ったワンポイント・アドバイスは未だ見出していない。写真と見出しだけ見ているからだ。

とはいっても、惹きつけられる魅力的な見出しはたくさんある。

- ・年齢で飛ばしを諦めるな!!
- ・芯にしか当たらないヘッドの動き
- ・クワ堀り練習で払い打ちスイングからダウンブローへ楽に変更
- ・リンゴの皮を薄くむく要領で 柔らかく寄せる
- ・板を使ってクリーンヒット
- ・50ヤード以内はSW一本で決まり
- ・アイアンは上から打つ
- ・SWは ソールを「引こずる」だけ

TV講座のテキストを除いた3誌の目次を、酔いに任せて観察してみた。

- P. ゴルフ
技術論が8割強、道具批評が1割、その他が読み物

- G. ダイジェスト
技術論が7割、道具批評が1割、その他読み物が2割
- C. イス(月刊誌)
道具批評が6割、読み物が3割、技術論が1割

C. イスは月刊誌(他の2誌は週刊誌)で、新年号のためか、道具に紙面の殆どを割いていた。たまたま新年号がこの様な記事の配分になっていたのかは不明。また、2誌の週刊誌には漫画があるが、この月刊誌にはない。

またこの月刊誌はG. ダイジェスト社の発行のため、週刊誌と記事内容の差別化を図っていることも想像できる。

2誌の漫画がページに占める割合は G. ダイジェストの16%、P. ゴルフが14%と殆ど同じ。両誌ともに漫画の流行を意識した配分だろうか。

一方、C. イスは 漫画がないのは、対象としている読者は漫画前世代か。

ここで3誌の別比較をしてみた。

	P. ゴルフ (週刊)	G. ダイジェスト (週刊)	C. イス (月刊)
価格	¥350	¥350	¥750
ページ数	202頁	219頁	154頁
サイズ	週間誌サイズ	週間誌サイズ	21cm x 28.5cm
重量	278g	299g	486g

C. イスは ページ数で約30%少ない、しかし 紙面サイズが30%大きいので合計有効面積は殆ど差がない。頁当りの重量は週間誌と同じ、C. イスは サイズを考慮しても36%も重い。頁当りのコストは週間誌が1.7円/頁、月刊誌が4.94円/頁、サイズを考慮しても高い。

気がついて見れば、この様な切り口の ¥費用対効果を出してみても、本を買う参考には全くならないし、むしろ読書を楽しむ人、ゴルフ雑誌の講読者に全く迷惑なことである。技術屋の職業病とやらで ついつい比較してしまっただけ。

こんなことでグダグダしていたら、当初の目的の4誌のゴルフ雑誌から何かを得る前に新シーズンが始まってしまった。

ワインは充分飲んだからまあ良いか。

(まちの のりよし・マジヤールズズキ)

インターネットで人生の楽しさを広げましょう! オトナももっと遊ぶ時代

人生に夢と輝きを BYOOL SNS ~The Best Years Of Our Lives~

BYOOL SNS (Social Networking Service)は、大人が楽しめるユーザー参加型のWEBサイトです。スマートな大人が集まるグローバルな知的空間を目指しています。現在、10ヶ国の海外に住む日本人が参加しており、国を超えて、文化や政治・経済始め、幅広い分野において、情報発信、議論を行なっています。あなたの知的好奇心を満たしてみませんか?

- ★参加方法: 事務局まで参加希望の旨、メールをお願いします。招待メールをお送りします。
BYOOL事務局 Email: admin@byool.com 「BYOOL Bloggers」 http://www.byool.com
- ★お問い合わせ: 上記事務局アドレスまでお問い合わせください。

<p>日記・エッセイ</p> <p>自分のページを持つ。日記、エッセイ、ブログ、記録として。</p>	<p>コミュニティ</p> <p>同じ興味・関心を持つ仲間の交流の場。OB/OG会にも。</p>	<p>豊かき・輝き</p> <p>様々な人の意見・情報のシェア、そこから生まれる新しい発見や気付きが、人生を豊かに輝かせるものに。</p>	<p>安心・安全</p> <p>無料会員制。SNSのメンバーだけが利用できるクローズドなサービスなので、安心安全。</p>
--	--	---	---

書き込みはすべて非公開にできますので、スケジュール管理や、何か自分の記録をつけたり、コミュニティをグループの連絡用に使用していらっしゃるメンバーもいます。

編集部よりのお知らせ



「ドナウの四季」のHPが完成しました。これまで掲載されたすべての原稿を読むことができます。 <http://www.danube4seasons.com>

皆様の原稿をお待ちしています。エッセイ、ハンガリー履歴書、自己紹介、サークル紹介などの記事をお寄せください。提出いただいた原稿は、紙面統一の編集のために修正することがあります。修正した原稿は執筆者の校正をお願いしています。

原稿は電子ファイルで、morita.magyar@gmail.comへお送りください。Word文書あるいは太郎文書でお願いします。EXCEL形式での提出はお控えください。写真および図形は別ファイルで送付ください。

スポーツ行事・運動サークル情報

ゴルフ部

<2011年度の活動、公式行事>

- 月例会 (何れも PANNONIA Golf Course)
- ① 3月27日(日) 10:00 ~ ④ 4月10日(日) 08:00 ~
- ③ 5月8日(日) 08:00 ~ ⑤ 6月5日(日) 08:00 ~
- ⑦ 7月10日(日) 08:00 ~ ⑥ 8月6日(土) 07:30 ~
- ② 9月10日(土) 07:30 ~ ⑧ 10月9日(日) 08:00 ~
- ⑨ 11月5日(土) 08:30 ~
- 「大吉杯」ゴルフマッチプレー選手権
第14回(春季) 4月中旬 ~ 7月下旬
第15回(秋季) 8月上旬 ~ 10月下旬
- 第5回PANNONIAワールド・カップ: 欧州、アメリカ、韓国、日本選抜 5月28日(土) 予定
- 第6回四カ国対抗戦: オーストリア、チェコ、スロバキア、ハンガリー対抗戦 7~9月 予定
- 第2回年代別対抗戦: 30歳から60歳までの各年齢層による対抗戦(夏~秋)
- 第2回HIGHLAND CUP: ハンガリー、日本選抜 10月下旬予定



<部員募集>

目下約50名。月例会には毎回30人以上の参加者があり、海外駐在員生活ならではの異業種間の交友を楽しんでいます。女性部員も大歓迎します。
連絡先: 古城(西鉄) manabu.furuki-nnr@dachser.com

ランニング情報

<2011年のレース情報>

- 4月10日 Vivicitta
従来の6km、12kmに加え、ハーフマラソンが新登場
 - 4月17日 ウィーン・マラソン/ハーフマラソン大会
(児童用の4.2km、幼児用1km)
 - 5月15日 K&H
マラソンリレー、ハーフマラソンリレー、ジュニアリレー
 - 6月 5日 or 8日 ドナウ河沿い沿岸道路 10km、5km競争
 - 9月 4日 ブダペスト国際ハーフマラソン大会
 - 10月 2日 ブダペスト国際マラソン大会
 - 10月16日 秋の女子レース
- 参加の申し込みは、日本人学校野田教諭宛か、morita.magyar@tateyama.huの盛田まで。

バドミントン部

現在の部員数は大人25名、子供10名。毎週日曜日16:00~18:00、3面を使用し30分程度のウォーミングアップ(初心者指導、基礎打ち)の後、経験者と初心者に分かれ或いはMixしてダブルスを中心とした試合形式で楽しんでいます。初心者向けの教室も開いています。

- ・シャトルは部で用意しますが、自前の体育館用シューズをご持参ください。
 - ・ラケットは貸出できますので事前にご相談ください。
- 代表者: 升谷(連絡先: hujpbad@gmail.com バドミントン部専用メールアドレス)

テニス部

- ① 2010年活動報告
- ・ペアマッチ(4月): 土曜・日曜のメンバーが集まり、それぞれペアを組み、予選リーグ・決勝トーナメントにて試合。試合後、親睦会を開催。
- ・送別テニス会(10月): 帰任者の送別テニス大会を開催。ペアを順次入れ替え、最終各個人のポイントにて順位決め。優勝者には「おやじ」称号が与えられた。試合後は、送別会を開催。

- ② 2011年活動方針
- 土曜&日曜テニスの交流を深めテニスライフを楽しむ!
- 計画: ペアマッチ・BBQ・練習会の開催。今までお互い行き来する機会があまり無かったので、各チーム主催のイベントを開催し、交流を深めていきます。

<メンバー募集中♪>

1. 土曜チーム
男性: 9名、女性: 1名
場所: ヴァーロシュマヨールテニスコート
時間: 毎週土曜日15:00~18:00(3時間)
代表: 杉本 mailto:arpad1162@yahoo.co.jp
2. 日曜チーム
男性: 10名、女性: 2名
場所: マッチポイントテニスコート
時間: 毎週日曜日 9:00~11:00(2時間)
代表: 的場 h-matoba@exedy.com

釣り部 部員募集!

初代釣り部長と主要幹部の日本帰国に伴い休部となっていたが、4月を目途に再び活動の運び。まずはハンガリー国内でのコイ釣りから始めて、今や伝説となっているオーストリア「爆釣の湖」(ばくちょうの湖)でのイワナ、ニジマス釣り。ゆくゆくはクロアチア沖での本マグロ(クロマグロ)「一本釣り」と夢は大きく広がる。 入部希望者は「大吉」飯尾(電話: 225-3965)まで



鈴木 舞



長沼 敦



松山 翔子

6月4日(土) 17:00開演
芸術宮殿 グラスホール
(Művészetek Palotája Üvegterem)

江廣 まり ピアノリサイタル

曲目: ドビュッシー: 喜びの島
リスト: エステ荘の噴水
ドホナーニ: コンサートエチュード
"カプリッチョ" その他



バドミントン部の子供達



緑の丘日本語補習学校学習発表会



室内オーケストラコンサート

2011年6月18日（土）19:00開演

聖ミハイイ教会 / Belvárosi Szent Mihály Templom

(1056.Budapest, Váci utca 47/b)

プログラム:

バッハ: ピアノ協奏曲第2番 ニ短調

ソリスト: 浅野 衣美 (リスト音楽院留学生)

.....

チャイコフスキー: 弦楽セレナーデ 他

※ 当日のオーケストラはハンガリー人プロオーケストラメンバー
による室内オーケストラとなっております。

※ このコンサートの収益金は、3月11日に発生いたしました
「東北地方太平洋沖地震」などの被害に対して、災害被災地への
速やかな支援を「芸術文化活動支援」を目的とするものとして全額
義援金として日本赤十字社及び芸術文化振興会に寄付させていただ
く次第です。



チケット料:

一般: 2,500HUF

学生・退職者: 1,500HUF

チケット取り扱い:

前売り券取り扱っております。当日、会場にて開演1時間前より当日券のご購入が可能です。

Propart Hungary Bt. (日本語可)

Tel&SMS: 06-70-3815548, E-mail: propart@chello.hu, <http://propart.client.jp/>

聖ミハイイ教会 1056. Budapest, Váci utca 47/b. Tel: 1- 337-8116



主催: Propart Hungary Bt.

さくら

DESIGN

CI、広告、ロゴ、ホームページ等
名刺1枚からご希望の言語にて
デザイン致します。

各種パッケージ、インテリアのデザイン、
内装工事、翻訳から印刷まで
幅広く受け承っております。
お気軽にお問い合わせ下さい。



SAKURA DESIGN: info@innerdesign.hu

Inner Design Group · 1021 Budapest, Bognár utca 7.

Tel/Fax: 1-200 3213 · Mobile: 06 20 480 4431

www.innerdesign.hu

Propart Hungary Bt.

各種コンサート企画・製作・国際交流イベントを
中心とした業務の運営。ハンガリーを拠点にグ
ローバルな企画・マネージメント展開を行って
います。お気軽に、御相談下さい。

- ・音楽企画/マネージメント
- ・若手音楽家の育成サポート
- ・国際交流事業企画運営
- ・留学/音楽研修サポート
- ・短/長期賃貸物件仲介
- ・各種通訳
- ・翻訳サポート
- ・買い/レンタルピアノ仲介
- ・輸入/輸出楽器仲介

ハンガリー国内出張演奏、
各楽器講師紹介なども随時承っております。

Propart Hungary Bt.

Address: 1089 Budapest, Kőrös utca 25. II/6

Tel&Fax: +36-1-786-7846

Mobil: +36-70-3815548

e-mail: propart@chello.hu

web: <http://propart.client.jp/>

